

ほぼほぼに

えねるぎっしゅ

韓国レポート特別号

Vol. **11**

2004. 8. 6

あすかエネルギーフォーラムでは7月11(日)～4(水)に韓国を訪問し「(社)原子力を理解する女性の会(WIIN)」との交流会と靈光原子力発電所見学を行いました。海外へのネットワークづくりの第一歩を踏み出した“エネルギートークサロン in ソウル”を中心に訪韓報告をお届けします。



社団法人 原子力を理解する女性の会【WIIN】のメンバーと共に

文 貞洙副総裁(後列左から3人目)
崔 旻淑教育広報副総裁(後列右から2人目)
キム ナギャン ソウル市協議会長(前列右から1人目)

WIINは1995年に「漢民族統一女性会」有志により「原子力に関する広報活動及び情報交流を通じて原子力の平和利用を正しく理解し環境保全と豊かな文化創造に貢献する」ために設立された。現在個人会員は全国16市・道に9,865人。そのほか原子力関連機関・事業体の団体会員が10機関加入している。国の経済発展のためには原子力発電が必要との立場を明確に、政策提言を行っている。各種セミナー・シンポジウム開催/原子力発電所見学/特別講師として学校教育支援等のほか地区協議会ごとに収益活動も行い独自の奨学金を給付するなど活発に活動している。

WIIN (Women Interested in Nuclear) との交流 ～笑顔の交流に、今後の連携・情報交換が

期待される～

会員 古谷由紀子

あすかエネルギーフォーラムの秋庭理事長ほか7名は、「原子力を理解する女性の会」との意見交換会を行った。事前の学習会では“礼節を重んずる韓国なので失礼のない服装で”と言われていたこともあって、旅行気分を少し横において格調高い(?)意見交換会が始まった。

しかし、それもつかの間、いつもの好奇心いっぱいのあすかメンバは、次から次へと目ごろの疑問解消に、また今後の活動の参考にしようと、意欲的に(というかむしろ貪欲に)自分たちのペースで質問攻め。「原子力を理解する女性の会」の参加者メンバは副総裁ほか2名の参加で年齢も活動実績も上の先輩女性たちが母なる笑顔で答えてくださった。

意見交換会の内容をあすかの活動と対比してみると、

① 原子力推進の立場で活動をしており、低・中レベル放射性廃棄物処分場について、グアン郡の住民投票の際にもWIINとして、賛成の意思表明を行ったとのことであり、あすかが中立の立場での交流をしているのとは異なる。

② 政府(女性部)への政策提言活動を行っており今後のあすかにも取り入れるべき課題と思われた。

③ 主なメンバの職業は経営者とか作家とか講師であり、あすかのメンバと同様に自由に活動できる素地があるのが似ていること、などであった。

わたし個人の興味は韓国の女性の会が立場を明確にして積極的に原子力を理解するための活動を行っていることであった。この女性の会が如何に巨大であるかは正直想像の範囲外というほかはない。副総裁によれば、韓国でも日本と同じく女性が原子力によりイメージを持っていない。韓国では原子力=武器、日本では原子力=原爆と同一視されているためではないかと言われたが、女性の会の会員数を見る限り、理解を得るためのハードルが韓国と日本ではかなり異なるようにも思えた。韓国と日本の文化的歴史的な背景の違いなどをもっと知る必要がある。今後の課題にしたい。



会場のHANMIRIは創作宮廷料理のお店。辛い料理は皆無で洗練された品々に一同韓国食文化の奥深さを堪能。話も弾んだ。



ヨンガン(靈光)原子力 発電所見学



『歓迎あすかエネルギーフォーラムの皆様』との電光掲示板を背景に記念撮影
中央秋庭理事長を挟む洪対外協力室長(右側)と辛広報技術課長(左側)



国家首脳会議でも開けそうな格調高い応接室

ヨンガンは首都ソウルから370kmの位置にあり最寄の都市は光州。関西電力などと同じ加圧水型原子力発電(PWR)。6基の出力は合計590万kw、韓国原子力発電量は、約40%でその内36.7%を占めている。私達が見学した6号基は2002年に完成した。

立地振興策に注目・・・5km以内の住人に対し、地域活動支援と人材育成を行う。前者は文化活動支援や発電所見学費用負担、温排水の稚魚養殖、海洋生態系監視の民間団体支援。後者は50億ウォン(約5億円)を目標に地域の奨学金とし、今まで35億ウォンを支給。延約18千人に渡った。一人当たり200万円という事か。金額をはっきりと表示するのはいいことだと思う。(中野)

中央制御室で・・・ 10名前後の所員が全員カジュアルな私服だった。制服はあるが、夏期の7月、8月は私服でいいらしい。日本のオペレーションルームの緊張度が100とすれば、韓国は70くらい。なんだ、あんな感じでもやっていけるのかと、国民性の違いを感じたが、日本も、もっと気楽な雰囲気でおオペートできれば所員も楽しいし効率もいいのに・・・と、ちょっと同情した。(寺尾)

訪韓報告は あすかエネルギーフォーラムのホームページ
<http://www.asca-ef.org/> にも詳しく掲載いたします。
併せてご覧下さい



韓国と言ったら、やっぱり焼肉。乾杯! ビールのキャップは手でひねって開けます。量は中瓶で味も軽め。(水みたい との酒豪の声も)



韓国の夏バテ予防食
参鶏湯(サムゲタン)

鶏一羽の中に朝鮮人参・ニンニク・クコ・棗などをもち米と一緒にいれ煮込んだもの。一緒に供される小皿ものは全部種類が違うおまけのおかず。お代わりも無料。



生の蛸の刺身。
切られていても、動いています。
吸盤が口の中で貼り付きました。



世界文化遺産「昌徳宮」正門前の衛兵。ガイドなしでの見学はできない。日本語ガイドによるツアー一日4~5回実施されている

南大門市場で韓国料理は各種キムチを始めとする野菜が料理の中心。市場にも豊富な野菜が並びます



非言語劇「NANTA(乱打)」専用劇場の前で韓国の伝統芸能サムルノリを現代的にアレンジしたNANTAは、とあるレストランを舞台に厨房にあるものを実際に使って音を出して進行するパフォーマンス。461席の客席と出演者達が一体化しながら高まってゆく興奮は「交流」がいかにエネルギーを増幅させてくれるかを実感させてくれた。

WIINのように、資金獲得のためにビジネスも手がけて、手広く活動することも素晴らしいと思うが、あすかエネルギーフォーラムは、あくまでも私たちのできる範囲で、地道に活動していきたい。

WIINとの交流は、改めて「あすかエネルギーフォーラム」の活動を考える良い機会となった。今回の韓国視察については(財)日本原子力文化振興財団と(社)韓国原子力文化財団に多大なご協力をいただいたことを心から感謝したい(秋庭)

この度の交流を記念して、訪問した私たち一行に約1万人弱の会員からなる誇り高いWIINの会員バッチを頂きました。このバッチを心に抱き一行は時間の関係もあり、まだ語り尽くせないテーマは次回の機会を期待することとなりました。(横田)

WIINの文副総裁も「韓国の町を観、食べ物を食べて韓国のことを良く知って欲しい。」とおっしゃっていただきましたが、韓国はとても魅力的な国でした。今回、計画決定から実施まで時間が足りず広く参加募集することができませんでしたが、次回(来年?)は、余裕を持って計画策定し全会員へ呼びかけます。今度は一緒に!(川西)